

Ryan Keberie & Catharsis trio

[プロフィール]

Ryan Keberie ライアン・ケバリー：trombone



ワシントン州スポケーンで生まれ育つ。

ウィットワース大学の教授でトランペッターの父とピアノ教師で教会のミュージカルディレクターの母の元で育ち小学校の時にクラシックのピアノとヴァイオリンのレッスンを始める。

1999年、ニューヨークに移りマンハッタン音楽院に進学し、ステイヴ・トゥーレにトロンボーンをマイク・アビーン (p)、マニー・アルバム (bs) に作曲を習う。

卒業後にはジャズの音楽的卓越性のためのウィリアム H. ボーデン賞を受賞しました。

2003年、ジュリアード音楽大学のジャズ科の第1期生になり、ワイクリフ・ゴードン (tb) とデヴィッド・バーガー (tp) に師事する。またデヴィッド・バーガー・ジャズ・オーケストラの一員として活動すると同時にマンハッタン・カトリック教会で数年ミュージカル・ディレクターを務め、やがてニューヨークのジャズシーンの最前線にトロンボーン奏者、作曲家として登場し大きな話題になる。

ライアンの音楽的興味はジャズだけにとどまらず、Ravel から Beatles, Duke Ellington, Sufjan Stevens, Fania All-Stars までに及び、彼の音楽的多様性はそれら全てが反映されている。また特筆されるべきは彼が今まで経験してきたレコーディングに、マリア・シュナイダー・オーケストラ、ライアン・トゥルースデルのギル・エヴァンス・プロジェクト、ミゲル・ゼノン・ビッグバンド等、現在の重要なラージ・アンサンブルのレギュラー・メンバーとして参加していること。

それらの全てが2010年代に入って結成したコンテンポラリー・ジャズ・グループ「Catharsis」に反映されている。

最新作「Into The Zone」ではカミラ・メサをボーカリストかつアンサンブル・パートナーの一員として迎え、ひとときカラフルな作品として仕上がっている。

現在のジャズ・シーンで最も重要なトロンボーン奏者であると同時に作曲家である。

Jorge Roeder ホルヘ・ローダー：bass



ペルー、リマ出身。14歳の時にチェロを学び始める。

16歳の時にロシアのサンクトペテルブルクのリムスキー・コルサコフ音楽院へクラシック音楽の追求のために招かれる。

18歳でコントラバスを始め、後にリマ・オペラ管弦楽団の副主席ベーシストに任命される。

'02年、ニューイングランド音楽院から奨学金を受けボストンへと拠点を移し、Danilo Perez, Charlie Banacos, John Lockwood 等からジャズを学ぶ。

'07年、「International Society Of Bassists Jazz コンテスト」で最優秀賞を受賞、2009年には「セロニアス・モンク ジャズコンテスト」のセミファイナリストに選出される。

同年、参加していた Julian Lage グループがグラミー賞にノミネートされる。

オリジナルのジャズはもちろん伝統的な南米音楽を手がける Sofia Rei グループの創設メンバーとして芸術監督を担っており、Gary Burton や Alex Acuna, Geoffrey Keezer, Steve Lacy, Antonio Sanchez, Kenny Werner, Matt Wilson といった

名立たる演奏家と共演し各方面より注目を浴びる。また、ツアーやレコーディング、ライブ演奏等でニューヨークでも積極的に活動し、Shai Maestro Trio, Victor Prieto Trio,

Ryan Keberie のプロジェクトへ参加している。現在、ニューヨークのジャズシーンで最も多才なベース・プレイヤーの1人である。

Camila Meza カミラ・メザ：Vocal & Guitar



チリ出身、サンティアゴ生まれ。

新しいサウンドを切り開き、多種多様な表現を可能にする新世代のジャズミュージシャンの1人。

16歳からシンガー/ギタリストとして活動を開始し、19歳から23歳までの間、母国チリで2枚のアルバムを発表し同国内で高い評価を得る。

2009年、ニューヨークに移りニュースクールに学び、ピーター・バーンスタイン、ヴィック・ジュリス、サム・ヤヘル、ステイヴ・カーデナス、ギル・ゴールドスタインに師事する。

ニューヨークに移ってからすぐにジャズシーンの注目を集め、Jazz Standard, Village Vanguard, Blue Note, Smalls Jazz Club, The Jazz Gallery, Rockwood Music Hall 等に出演し2012年にニュースクールを卒業する。

ニューヨークでの7年間で、N.Y. ジャズシーンに大きなインパクトを与え続けている。

優しくソウルフルなギター・インプロビゼーションとともに、独特なハイトーンヴォイスは実に印象的で、その音楽は私たちに美しさと冒険に満ちたエナジックなそして深い旅路へと誘ってくれる。

ラテンアメリカンのルーツ、現代音楽やポップスをも融合させるバランス感覚、ジャズへの真摯な姿勢が彼女の作る音楽に魅力的なサウンドを与え、よりスペシャルなものにしている。

国際的にも高く評価されており、ヨーロッパ中のフェスティバル、ライブハウスにも多数出演。

ピアニスト Fabian Almazan のプロジェクト Sachal Vasandani's Quartet のシンガーとしてツアーに参加。

トロンボーン奏者 Ryan Keberie のバンドでも「Into the Zone」「Azul Infinito」の2枚のアルバムでリードシンガーを務めている。

Tom Harrell, Dave Douglas といったジャズ・レジェンドらとも共演しており、Aaron Goldberg Trio にスペシャルゲストとして参加。Aaron Goldberg とのコラボレーションを経て、自身のアレンジによる『Prisma』(EP) をニューヨークにてレコーディング。

2016年、Sunnyside Records より「Traces」をリリース。シャイ・マエストロ、マット・ペンマン、ケンドリック・スコットらが参加し、彼女のコンポーザー、シンガー、ギタープレイヤーとしての優れた才能を十分に発揮されている。